17　　西行の災難　　　　　　　　　　　　　　　助動詞②　つ・ぬ

伏見中納言と言ひける人のもとへ、西行法師行きて訪ねアけるに、あるじは歩き違ひたるほどに、侍の出でて、Ａ「何事言ふ法師ぞ」と言ふに、縁に尻かけて居たるを、Ｂ「怪しかる法師の、かく痴れがましきよ」と思ひたるけしきにて、侍ども睨みおこせたるに、簾の内に、箏の琴にて秋風楽をひきすましたるを聞きて、西行、この侍に、Ｃ「物申さん」と言ひイければ、Ｄ「憎し」とは思ひながら、立ち寄りて、Ｅ「何事ぞ」と言ふに、Ｆ「簾の内へ申させ給へ」とて、Ｇ「ことに身にしむ秋の風かな」と言ひ出でたりければ、Ｈ「憎き法師の言ひ事かな」とて、かまちを張りてけり。西行、はふはふ帰りてウけり。

後に、中納言の帰りたるに、Ｉ「かかる痴れ者こそ候ひつれ。張り伏せ候ひぬ」とかしこ顔に語りければ、Ｊ「西行にこそありつらめ。ふしぎのことエなり」とて、心憂がられけり。

【本文チェック】

①　ア～エの助動詞の文中での活用形を書きなさい。

　ア（　　　　　形）　　イ（　　　　　形）

　ウ（　　　　　形）　　エ（　　　　　形）

②せりふと心中語のＡ～Ｊは誰の発言・考えかを、次から選んで書きなさい。

　【中納言・西行・侍】

　Ａ（　　　　　）　　Ｂ（　　　　　）　　Ｃ（　　　　　）

　Ｄ（　　　　　）　　Ｅ（　　　　　）　　Ｆ（　　　　　）

　Ｇ（　　　　　）　　Ｈ（　　　　　）　　Ｉ（　　　　　）

　Ｊ（　　　　　）

③「この侍」はどこにいたか。文中から三字で探しなさい。

　（　　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　歩く〔１〕（　　　　く）

２　縁〔２〕（　　　　）

３　簾〔３〕（　　　　　）

４　箏の琴〔３〕（　　　　　の　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　し〔２〕　（　　　　　　　　　　　）

２　痴れがまし〔３〕　（　　　　　　　　　　　）

３　はふはふ〔７〕　①やっとのことで

　　　　　　　　　　②（　　　　　　　　　　　　）

問３　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　「いとおもしろきこそ候へ」（堤中納言物語）

　ア　お仕えする　　　イ　おります

　ウ　いらっしゃる　　エ　差し上げる

　（　　　）

２　月のいでたらむ夜は、見おこせたまへ。（竹取物語）

　ア　物を送る　　　　　イ　視線をよこす

　ウ　目を覚まさせる　　エ　思いやる

　（　　　）

３　若き人々、おのがじし心憂がりあへり。（堤中納言物語）

　ア　あわれがる　　イ　うれしがる

　ウ　残念がる　　　エ　嫌がる

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の活用表の空欄を埋めよ。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ぬ | つ | 基本形 |
|  |  | 未然形 |
|  |  | 連用形 |
|  |  | 終止形 |
|  |  | 連体形 |
|  |  | 已然形 |
|  |  | 命令形 |
|  | | 意味 |

問５　次の傍線部の助動詞の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　（扇が）白波の上に漂ひ、浮きぬ沈みぬ揺られければ、（平家物語）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　空よりも落ちぬべきする。（竹取物語）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　夢てふものは頼みめてき（古今和歌集）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

４　暮れぬれば参りぬ。（枕草子）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

【古典常識】

問６　若くして出家し、生涯を旅に過ごした西行法師は、平安時代末期から鎌倉時代初期の人で、もとは鳥羽上皇に仕える北面の武士であった。和歌の達人として知られ、その没後に成立した後鳥羽上皇勅撰の『新古今和歌集』には、最多の九四首が採られている。

　　　西行の私家集（個人歌集）を次から一つ選べ。

ア　集　　イ　集

ウ　集　　エ　集

　（　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝連体　イ＝已然　ウ＝終止　エ＝終止

②　Ａ＝侍　　Ｂ＝侍　Ｃ＝西行　Ｄ＝侍　Ｅ＝侍　Ｆ＝西行

　　Ｇ＝西行　Ｈ＝侍　Ｉ＝侍　　Ｊ＝中納言

③　簾の内

問１　１＝あり　２＝えん　３＝すだれ　４＝そう（の）こと

問２　１＝変だ　２＝馬鹿げたことだ　３＝あわてふためいて

問３　１＝イ　２＝イ　３＝ウ

問４　（つ）　て ｜ て ｜ つ ｜ つる ｜ つれ ｜ てよ

　　　（ぬ）　な ｜ に ｜ ぬ ｜ ぬる ｜ ぬれ ｜ ね　意味＝完了・強意・並列

問５　１＝並列・終止形　２＝強意・終止形

　　　３＝完了・連用形　４＝完了・已然形

問６　ウ

【現代語訳】

問３　１　「たいへんすばらしい毛虫がおりますよ」

　　　２　月が出たような夜は、（月の方に）視線をよこしてください。

　　　３　若い女房たちは、めいめい残念がりあった。

問５　１　（扇が）白波の上に漂い、浮いたり沈んだりして揺られたので、

　　　２　空から落ちそうな心地がする。

　　　３　夢という（はかない）ものをも、（私は）頼りにし始めてしまった。

　　　４　日も暮れたので（中宮の所に）参上した。